

未来で後悔しないために

市川三郷町立市川中学校二年 三澤 芽唯

この課題が出されたとき、私が一番最初に考えたことは「人権とは何だろう」ということだ。「人権」という言葉自体は知っていたが、深い意味・人権が必要な理由などは知らなかったため、これを機に調べることにした。調べてみて、「人が人として、その社会の規範の中で自由に考え、自由に行動できる権利」や「一人ひとりに必ずあり、すべての人が幸せになれる権利」など様々な言い方があることを知った。これを知り私は「だれもが平等である」こともたくさんの考え方ができる人権の一つなのかと思った。

でも、今の世の中はすべての人の人権が守られているとは言えないと私は思う。なぜなら、私達が見ている世界はこの広くて大きい世界のほんの一部にかすぎないのに、その一部の世界だけでも苦しんでいる人や、平等に扱われていない人が大勢いると日々、感じているからだ。例えば『いじめ』。これは長年対策や話し合いが行われているが、なかなか減ってはこない。どうして減らないのだろうか。その原因のひとつとして、『いじめ』を自分事として捉えていないことや、見て見ぬ振りをしていることなどが挙げられると思う。どうしても、自分がいじめを受けていなかったり、身近にいじめが存在しなかったりする場合では『いじめ』を自分事として捉えることは難しいと思う。私も、百パーセント自分事として捉えているかと言われたら、嘘になる。また、いじめを見て見ぬ振りをする、いわゆる傍観者と呼ばれる人達は、いじめを受けている人からすれば「いじめている人と何も変わらない。」と思っているのかもしれない。私にも、そういった経験がある。小学生の頃、ある子が影で色々言われていた。その子も、もちろん周りの人達も気付いてはいたと思う。けれど、誰も何も言わなかった。最初は気付いていないかのように普通に話していたその子も、時間が経つにつれ、学校を休みがちになり、その子の姿を教室で見ることは少なくなった。そうさせてしまったのは、まぎれもなく、いじめていた本人と、気付いていたのに何もしなかった、私達の責任だと、あの時より少し大人になった今、私は気付くことができた。自分の無力感に気づき悔やんだ過去も、たくさんしてきた後悔も、全部全部、変えることはできない。変えることができるのは『未来』で大切なものは『今』だから。もう一度はないこれからの時間を大切にしていきたい。未来で後悔することがないように。

最近では、インターネットの普及により、ネット上での誹謗中傷が増えていると感じる。いや、実感しているという言葉の方が正しいかもしれない。なぜなら、私の尊敬している人達もその被害を受けているからだ。ネット上では、自分の本名や顔を出さずに、誰でも簡単に文字に思いをのせ、考えを伝えることができる。「応援してます」や「いつも元気もらってます」などの人の心を温めてくれるような声、それとは反対に「解散しろ」や「キモイ」などの誰かの心に深い、傷を残すような心ない声もたくさんある。自分の声を簡単に届けられるようになったということは、自分の何気ない一声もいとも簡単に届いてしまうということだ。私は言葉は「ガラス」だと考えている。なぜなら、普段はきれいなものだけれど使い方を一歩間違えるだけで人を死にまで追い込んでしまう鋭い「凶器」となるからだ。一回、ぐしゃぐしゃに丸めた紙が元の姿に戻らないように、一度傷付けられた人間の心は完全には戻らない。表向きでは誰にも見せていない心の傷を裏では抱えている人も、自分の本当の気持ちを隠している人も、誰かの放ったその時だけの言葉で人生をかけて悩んでいる人もたくさんいる。こう言いきれるのは、実際にそういった心を抱えている人を知っているからだ。私はそのことを一人でも多くの人に知ってもらいたい。そうすることで少しでも大切な人権が守れると思うから。

今の世の中は、いじめを受けている人と受けていない人がいることや、自分の意見を声をあげて言える人と言えない人がいることなど「全ての人が平等である」と言えるには、まだまだ程遠い。もしかしたら、この先のずっと先の未来でも言うことはできないかもしれない。それでも、過去を生きている訳でも未来を生きている訳でもなく『今』を生きている私は、平等に少しでも近づけるために、同情のような上に被せるだけの優しさではなく、人の痛みを心から分かり寄り添うことのできる優しさを持った人になりたい。たくさんの壁にぶつかって痛みを知り、誰かに寄り添うことができるまで、たとえ止まったとしても後ろには戻らず、前を向いて生きていき、一人でも多くの人権を守るために行動を起こしていきたい。いや、起こすんだ。